

会報 安曇野教育

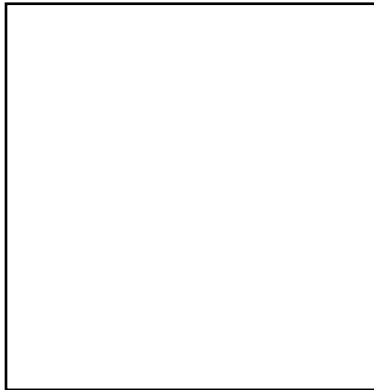
第79号

発行所 安曇野市教育会
発行人
編集 会報委員会

発行日 令和6年 7月 12日
題 字

「安曇野の子どもたちの力を育む そのために」

会長



創立から136年目の安曇野市教育会がスタートしました。去る5月11日（土）には、豊科公民館ホールにて「総集会」が開催されました。講演会では、長野短期大学幼児教育学科准教授の白金俊二先生に「子どもとメディアの関係性とコントロール」という演題でご講演いただきました。学校現場で、実際に子どもたちと生活を共にする中で感じられてきたご経験から、コロナ禍を経て現代社会を生き抜く子どもたちに求められることは何であるか、子どもたちのために我々大人が深く考えていかなければならないことは何であるか、様々なデータも交えて貴重なお話を拝聴することができました。総集会終了後には、昨年度までコロナ禍で実施していなかった「退職者慰労会・会員懇親会」を久しぶりに行

いました。ご来賓の皆様、先輩の先生方にもご参加いただきながら、会員の皆様と語り合うことができたこと、大変嬉しく思います。

6月15日（土）には、「先人等に学ぶ会」が開催されました。安曇野市教育会初代会長の岡村千馬太先生の碑前祭や墓参を執り行った後、明科公民館社会教育指導員の坂模邦章様を講師に会館で学習会を行いました。岡村先生の遺徳を偲びつつ、教育会の歴史を振り返ると共に、子どもたちの前に立つ私たち自らの姿を問い返すよい機会になりました。長き年月を経ても、今なお続く教育会に流れる先人の思い・精神、その重さをひしひしと感じました。

会員の主体的な参加・参画により、教職員の資質・職能の向上や生涯学習の充実を目指すことを教育会の理念とし、今後も、同好会や各種委員会等々の様々な活動が展開されます。安曇野の子どもたちの力を育むために、人と人とのつながりを大切にしながら研修・修養し、自分を高めていきましょう。

「安曇野の先人等に学ぶ会」

学校

第68回を迎えた今年度はコロナ禍の期間中、中止していた「学習会」を実施することができました。6月15日（土）に教育会代表6名で碑前祭及び墓参を実施しました。城山公園の碑前祭は、松本市教育会長、塩筑教育会長にも参列していただき、拝礼、献花、献酒を行いました。三郷中萱にある墓所では歓喜寺のご住職に読経をあげていただき、献花、焼香を行いました。その後、南安曇教育文化会館で務台理作碑・木村素衛碑に教育会会員、賛助会会員の30名で拝礼しました。その後は、安曇野市教育委員会明科公民館社会教育指導員の坂模邦章先生を講師に迎え、「安曇野市教育会のあらまし」をテーマに約60分間の講演をお聞きしました。先人の墓所や碑の前に立ち、また、坂模先生の講演をお聞きし、岡村千馬太先生の「教育者は人格者でなければならない。人格者に触れることによってお互いの人格の向上が図れる。天下第一の人格者を招き、その人格に触れることによって、教師自身はまず優れた人格者たらん。」の言葉を思い出し、気持ちを新たにしました。



◆ 初任者歓迎研修会 ◆

学校

5月28日（火）、安曇野市教育会・信濃教育会共催による『初任者歓迎研修会』が開催されました。市内小中学校に赴任した初任者が一堂に会し、教育会の意味を知るとともに、先輩会員の経験談を聞く機会をもち、今後の教育活動に期待や希望をもてることを願って毎年開催されています。

開会行事の前に郷土文化財センターと視聴覚協会の見学を行いました。
「安曇野の教育に深く関わった先生方のことを知るきっかけになった」
「歴史的・文化的な記録や写真など見て、そこに生きる人や教壇に立つ先生方がどのような伝統を背負っているのか、今後どのような未来を望むのかなど様々なことを考える機会となった」と、参加者から感想をいただきました。

その後、安曇野市教育委員会より 教育指導員から挨拶と、信濃教育会より 教育研究部長から信濃教育会の概要説明をしていただきました。先輩会員からは 学校 先生、 学校 先生から発表をしていただきました。「自分自身の授業や働き方を見直すことができた」「自分のことを生徒に伝えていくことや軸をもつことなど大事にしたいことを考える機会となった」と、年齢の近い先輩からの話は、心に響くものがあったようです。

その後は、茶話会を行いました。初任者、主催者等が4～5人のグループに分かれ、お茶を飲みながら歓談しました。ずっと緊張していた初任の先生方でしたが、この時間は笑顔が見え、笑い声もたくさん聞こえてきました。「先輩方に直接質問ができ、貴重な話が聞けてよかった」「日々の生活で困ったこと、難しいと感じていることなど話を聞いていただいて充実した時間となった」「いろいろな先生方と話ができ、気持ちが軽くなった」と感想が寄せられました。

次年度以降も教育会として少しでも初任者の支えとなるよう、より充実した初任者歓迎研修会を目指してまいります。

令和6年度 実技講習会紹介

学校

7月26日（金）午前を基本とし、（哲学・国語・音楽は下記参照）以下の内容で実技講習会が行われます。夏休み前半の半日が、先生方の知的好奇心を刺激する時間になることを期待しています。

講 座 内 容			
国語	書を学ぼう・書こう・楽しもう！ ～大澤逸山先生に学ぶ書写指導 2024 夏～	【24日（水）実施】 道徳	『こうすれば心が育つ』!心を育てるために今どのような道徳教育(心の教育)が望ましいのか追究しましょう!
社会	水と生きる 100年先の未来を見据えた天然水づくり	【23日（火）実施】 哲学	哲学研修講座 ～今を生きる教師として、木村素衛の思想を読む～
算数 数学	・数学的に考える資質・能力の育成を図る授業づくり ～学びを社会に生かす教育を目指して～ ・なぜ?本当?どうなる?から始まる算数・数学の自由研究	教育 相談	・ポジティブな行動支援 ・不登校激減方法の紹介
理科	今後の授業に活かそう!教材の工夫!	人物誌	井口喜源治記念館(穂高) ～井口喜源治の信仰と教育～
音楽	『信州ユニバーサルデザイン』の視点を生かした音楽学習の授業展開を考えよう! 【26日（金）午後実施】	英語	安曇野を英語でガイドしよう!
美術	北欧装飾ヒンメリ作り	情報	Chromebook・ロイロノートを授業に活かそう
体育	明日からの授業に活かそう!実技伝達講習	学校 保健	リンパケア講座
技術	信州サーモンを教材化? 長野県の水産業から学ぶ	家庭	夏野菜で夏バテ予防! ～季節の食材で元気になろう～
特別 支援	自立活動に使える教材づくり	生活 総合	みそ・しょうゆ もの知り博士から学ぼう

【郷土の文化財 5 5】

激動の教育社会に力を尽くし、信念を貫き通した教育者、松岡弘先生の書である。松岡先生は旧三郷村温に生まれ、21年間信濃教育会長を歴任した。

「一粒の麦 地に落ちて死なざれば 唯一粒にてあらん 死なば多くの実を結ぶべし」
これは、「教育精神の根本は、愛である。愛は犠牲である。愛の一心は、すべてに勝つ。愛は強い。愛は必ず多くの実を結ぶ。これは、古今東西を通じて変わる事のない永遠の真理である。教育者は一粒の麦である。」と教育者の理念を説いた名筆である。

(郷土文化財センター運営委員 学校)

一粒の麦地に落ちて死なざれば
唯一粒にてあらん 死なば多くの実を結ぶべし
松岡弘

安曇野巡検

学校

6月22日(土)、「初夏の半日、安曇野の“たのしい!” “おもしろい!” を一緒にみつけませんか?” というキャッチフレーズのもと、安曇野のことなら何でも知っている安曇野市文書館の千村裕一先生を講師に招き、安曇野巡検を行いました。29名の参加者で、長峰山、大王わさび農場、なないろ農園を見学しました。長峰山では三角点・電子基準点や土地の特徴、大王わさび農場では水温の上昇を抑えるための工夫、なないろ農園では生産者の願いや働き方の工夫等について教えていただきました。

参加者からは、次のようなご意見をいただきました。

「長峰山は行ってみたかったのですが、機会がなく行けなかったので、よい機会になりました。」「安曇野のことについて詳しく教えてくださる学びの場があることはいいことだなと思いました。」「教科書やネットで調べたり見たりするのではなく、実際目で見えて感じる教材研究ができました。授業も肌で感じ、楽しいものにしたいと改めて思いました。」「バスの中でも、千村先生のお話があって、とても中身の濃い勉強ができました。資料も、とても充実していて、勉強になりました。」「目に見えるものだけでなく、その背景についても教えていただけて、たくさんの学びがありました。また授業づくりの切り口・ヒントもたくさんいただきました。」「なないろ農園の さんに出会え、“夏秋イチゴの栽培” という最新の安曇野の農業の現状を知る機会になりました。」

地理的・歴史的・科学的なもの、防災に関わるもの等、ありとあらゆる方面の話題、そして地区ごとの教材の可視化、人とのつながり、どれをとっても、今回の場がなければ、知り得なかったことばかりでした。楽しく知的に学べる充実した半日となりました。

教育会総集会報告

学校

5月11日(土)に、安曇野市教育会総集会を豊科公民館大ホールにて開催いたしました。昨年度に続いて参集での開催でしたが、今年度も音楽同好会の発表および安曇野市歌「水と緑と光の郷」、
「信濃国」の全員合唱は見合わせとなりました。また、今年度も一般の方々への公開は見合わせとなりましたが、その分、会員発表と講演会に焦点を当てた開催としました。

会員発表は、「外国語（英語）教育における小中連携について～教育課題委員会の活動から～」と題して、教育課題委員会委員長の
の 先生（ 学校）が発表してくださいました。

発表では、「協働的な学び」と「個別最適な学び」を意識した取り組み、「指導と評価の一体化」など、私たち教員が日常の取り組みから向き合っていかなければならないことを、指導の実際から教えていただきました。英語学習に主体的に取り組む児童の変容から、委員会の先生方による研究、取り組みの素晴らしさを感じました。

講演会は、白金俊二先生（長野短期大学幼児教育学科准教授）をお招きし、「子どもとメディアの関係性とコントロールの必要性」との演題でご講演いただきました。

白金先生は、2014年3月まで、長野県内の公立小・中学校7校に教諭として勤務されていました。現在は、大学勤務の傍ら、地域活動として、塩尻市のサッカーチームで小・中学生のサッカー指導や審判活動、プロサッカーチームと共催で幼児の運動教室などを開催されています。そんな多くの研究や活動をもとに、メディアをコントロールする必要性についてお話いただきました。



メディアの中でも、今や生活に欠かすことのできないインターネット。令和4年度には、97.5%の小学生が利用しています。3時間以上使用する小学生の割合も50%を超え、検索目的で使用するよりも動画を観ることに時間を費やしていることが多いそうです。学習や睡眠、家族との時間よりもスマートフォン等の使用時間が多いことは、それだけ健康への影響（視力低下、猫背やストレートネック、肥満など）も大きくなっています。ケガをする子どもの増加も見られるそうです。様々な影響があると分かっているにもかかわらずやめられない理由は、使用することが習慣（脳の癖）になっていること、脳の前頭前野が未成熟であることが挙げられるそうです。

健康への影響が大きいメディアですが、上手に付き合うために、白金先生は「自律した子どもを育てること」が大事であると話されました。自律した子どもを育てるために、〇〇ウィークや〇〇デーを設定することもよいそうです。〇〇の例として、「食事中はテレビ1時間」「メディアは1時間」「Noメディア」などを挙げられていました。それぞれの家庭で、工夫しながら取り組むことが大事になると感じました。また、親として、地域の大人として、一教師として子どもの日常を充実させるために、「外遊びやスポーツの楽しさを伝える」ことが、大人としてできることであり、現在が大人の出番であると強く感じました。

多くの研究や活動をもとにしたご講演には説得力があり、メディアとうまく付き合っていくために、これまで以上に学校や家庭の教育力が大事になると強く感じる時間となったのではないかと感じています。

総集会の趣旨は、教職員の職能向上に寄与し、郷土の教育が進展することです。まさに、総集会は教育活動の根幹をなす活動だと言えます。このことを踏まえ、今後、開催方法の工夫を含めて内容の充実を図り、開催内容を周知することで、より多くの会員や地域のみなさんに参加していただくとともに、参加されたみなさんの期待に応えるものにしていこうと考えています。

令和6年度 安曇野市教育会 同好会

17の同好会が発足しました。学校や学年の枠を越えた、先生方のつながりを大切にした学びの場となるよう取り組んでいきます。同好会員は随時募集しています。各校の代議員にお声がけください。

同好会名	会長（学校名）	幹事長（学校名）	会員数
国語			19
社会			23
算数・数学			18
理科			24
音楽			21
図工・美術			12
体育			29
技術・家庭			13

道徳			9
哲学			49
教育相談			18
人物誌			3
英語			13
情報教育			11
学校保健			21
特別支援教育			13
生活・総合研究会			11

(*会員数は5月20日現在)